

報告

福祉用具専門相談員研究大会、初の開催

第1回福祉用具専門相談員研究大会実行委員長
(国際医療福祉大学大学院) 東島 弘子

1. はじめに

第1回福祉用具専門相談員研究大会(大会長・岩元文雄)が6月17日(月)東京国際フォーラムで開催されました。職能団体である全国福祉用具専門相談員協会と、事業者団体である日本福祉用具供給協会が共催し、両団体事務局と有志による実行委員会方式にて、開催され、北海道から沖縄まで350名が参加しました。盛況に終えることができたこと、実行委員を代表してお礼を申し上げます。併せて、当日の報告を致します。

2. 内容

大会テーマは「伝えよう!福祉用具のちからを～地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割～」です。記念講演は、「平成から令和へ、福祉用具業界へ期待すること」と題し、医療介護福祉政策研究フォーラムの中村秀一理事長に、この30年を振り返るご講演を頂きました。教育講演は、国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部の東祐二部長から「現場から発信する福祉用具の有効性について」と題し、専門相談員に、福祉用具の有効性を明らかにするために、データを取ることの重要性を説く、教育講演にふさわしい内容でした。

3. 発表

口述発表とポスター発表の合計22演題でした。事例報告が目立ちましたが、社内研修による人材育成の報告や、小学校の体育館を利用し、福祉用具体験教室の取り組みを通じた地域との連携、状態改善により利用終了にいたったケースの報告など、「福祉用具のちから」や「地域包括ケアシステムの中で

の福祉用具の役割」を感じさせる発表でした。メーカーに勤務する村田沙織さん(ランダルコーポレーション)の発表は「ベッドメーカーとして貸与事業所とはかかわりが多いが、地元のことを知らず接点がなかった」ことに問題意識を持ち、2018年から毎月介護予防セミナーなど自主活動を続けていた報告でした。次第に参加者が増え、地域とのネットワークが形成されていき、2019年1月からは、地域ケア会議にも参加しているというものでした。

4. 次回に向けて

初めての開催ということで反省点は多々あります。1つは、予想を上回る申し込みのため別会場を用意したこと、それでも足りず残念ながら参加申し込みをお断りしたことです。またポスター発表を予定していましたが、参加者が多いため、スペースが足りずに、ポスターは掲示したものの、全演題が口述発表形式となりました。そうした中でも、参加者へのアンケートでは92%が参考になったと回答頂きました。実行委員一同何よりの喜びです。来年は、6月16日(火)に東京・日本教育会館で開催を予定、会場も広がります。どうぞ皆様、ご参加ください。



図1 口述発表



図2 ポスター掲示

国際医療福祉大学大学院

〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26